

花火で街の再発見

澄んだ夜空に

石和温泉

冬花火

新日本観光地100選にも選ばれた温泉郷、石和温泉。春は花、夏はフルーツ、秋は色づく山々と、季節ごとの風情が人々に訪れる目的を与え、多くの人を楽しませています。そして今、このエリアの新たな魅力として話題なのが、5年ほど前に始まった“冬花火”。夏の風物詩と言われる花火を敢えて冬の夜空に打ち上げるという新発想。慶山グループ代表取締役、千須和昌さんが主催者の想いを聞かせてくれました。

冬の夜空を彩る
圧巻の大輪
感動を誘う
時間と空間

「空気が乾燥して澄んでいる冬は、花火がとても綺麗に見えるんですよ。」

石和温泉の老舗旅館「慶山」をはじめ、このエリアでいくつもの観光施設を運営する慶山グループ代表取締役の千須和昌さんこそ「冬花火」の仕掛け人。

「冬の石和はいわばオアシスゾーン。いちごにはじまり、さくらんぼ、もも、ぶどう、柿まで、春夏秋冬はフルーツを中心にご覧いただけます。だから、何かやろうと思ったのです。」

千須和さんが実現したかったのは、モノ（商材）を強く売り出すのではなく、コト（イベント）で人を惹きつけること。そこで思いついたのが、空気が乾燥して澄み渡る冬の気候と風光明媚な笛吹川の景観を生かした冬の小さな花火大会でした。

「冬花火は臨場感が持ち味。観覧席があるわけではありませんが、河川敷まで行くとなると真上で上がっているような迫力が味わえます。マイクロバスを出している旅館もあり、宿泊していただいているお客様にご利用いただいています。」



慶山グループ ちすわ
代表取締役社長 千須和昌和

写真提供/株式会社SPC

つながりを
作る
街づくりへの
関わり

毎年2月の週末(金・土・日)を中心に、夜8時30分から15分にわたり、約600発以上の花火が打ち上げられる石和温泉の冬花火。

「冬花火が開催できるのは、協賛していただいている企業様や地元の皆様のご理解のおかげ」と千須和さんは繰り返し話します。

「支援がなければ、花火イベントは正直難しい。それでも開催以来、石和温泉を全国にPRして下さる旅行代理店や旅行社さん、桔梗屋さんやJAさんなど、この地域を代表する企業さんらが毎年バックアップをしてくださっています。応援してくださる団体は年々少しずつ増えていきますよ。」

応援してくださる人や団体、訪れてくれる人が増えることは「この方向性は間

違ってなかった」と主催者たちの自信になっている様子です。

実際、冬の石和温泉に花火を目的に訪れる人も増えていきます。花火があることで、全国的な注目を集め、街を歩く人が増え、石和温泉が盛り上がる。そうすることで、地域がより元気になる。笛吹市からも応援されているなど、「花火をきっかけに、冬の石和温泉が回っている気がします」と花火に始まる地域の循環を千須和さんは教えてくれました。

花火で
街の再発見
仕掛け人の
明るい笑顔

湯量が豊富で「美人の湯」としても知られる石和温泉。こうしたもとの魅力があるからこそ、通りすぎるにはあまりに惜しい。県内・県外問わず、多くの人に訪れて欲しいと思うものです。その中

で花火は「来てもらうための仕掛け」にすぎません。

「現在のところ、花火は週末のみの開催ですが、できれば2月は毎日あげたいですね。そうすることで、県内の人にとっても、もっと敷居が下がると思っています。最近では、南アルプス市や北杜市からなど、県内の方が訪れて宿泊してくれることも増えてきました。もっと気軽に地域の温泉を利用してほしいと思うんです。本当にいいお湯だから、土地の資源や産業は、人々に愛され、続いていくことできちんと文化として根付いていきます。」

「冬花火は毎年工夫して継続していきたいですね。市と温泉組合と地域企業と人。その絆を強くしてくれるものになると思いますから。」



写真提供/株式会社SPC

